

学生支援の現場から

◆信州大学

「多様なニーズに対応した体系的な学生支援をめざして」

金子 功
(学生支援課課長)

信州大学は、人文・教育・経済・理学・医学・工学・農学・繊維の八学部、約一万一千人の学生が在学しており、大学本部と人文・経済・理学・医学の四学部が松本市、教育学部と工学部が長野市、繊維学部が上田市、南箕輪村に農学部が置かれたいわゆる「タコ足大学」である。このように本部と学部が離れていると全学的組織で包括的な学生支援を行うことが非常に難しい。

しかし大学全入時代が到来し多様化した学生のニーズに対して迅速に対応できる支援体制が求められるなか、既存の学生支援の取組の再編を図り、全学的組織のもとで体系的な支援の仕組を構築する必要がある。特にメンタルに関する支援ニーズは年々高まり複雑化してきており、教職員が密に連携しトータル的支援を行うことが急務である。



フィールド体験
八ヶ岳登山と森林浴で気分爽快

このような課題を解決するため平成一九年度の学生支援GPに『個性の自立を《補い》《高める》学生支援プログラム』を申請し採択された。このプログラムは人間力向上をキーワードに信州大学の持つ自然豊かな

フィールドも最大限に生かし「フィールド体験部門」「発達障害部門」「健康管理部門」「人間力育成部門」の四つの専門部門を設置し、互いがリンクした支援システムを構築し全学的組織で学生を支援するものである。そのために支援する学生と専門部門や関係部署とのコーディネーター役に新規に三名の専任コーディネーターと全学調整役に特任教授を採用し、教職員の学生支援FD・SD企画運営も含めた重要な任務を担ってもらう事とした。またプログラムの実施組織も教学担当理事を本部長に置き、関連する教職員



フィールド体験 田んぼ作業で汗をかく



専任コーディネーターによる個別支援

全てがこの支援プログラムのタスクフォースになるような組織にした。全学的組織でこの支援プログラムを実施するにあたりいろいろな障害はある。しかしそれをひとつひとつクリアしていくなくてはいけない。そのためには学生支援の現場にいる我々職員の意識改革と能力向上が必要であり、これを機に「これらの大学職員」の在り方を模索していきたい。「すべては学生満足のために」これがベースにあれば必ず答えは見つかるはずである。

支援プログラム実施組織

